様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年１２月２０日現在

研究種目：基盤研究（Ａ）
研究期間：2007～2009
課題番号：19201053
研究課題名（和文）　２０世紀タイ国における華僑華人社会の実相と役割ー未利用中国語タイ語資料を用いて
研究課題名（英文）Chino-Siamese Society in 20th Century Thailand

研究代表者
村嶋　英治（MURASHIMA　Eiji）
早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・教授
研究者番号：70239515

研究成果の概要（和文）：２０世紀のタイ華僑華人社会の政治、経済、社会文化の諸相を明らかにするために、先行研究では利用されたことがない、タイ国立公文書館などの華僑華人関係一次文献資料の収集、タイ国立図書館保存のタイで刊行された中国語新聞の閲覧・撮影、バンコクや地方都市での華僑華人関係者へのインタビューや参与観察を行った。これによって、従来知られていなかった、タイにおける華僑ナショナリズムの起源と運動の展開、華僑華人の初期共産主義運動、華僑華人社会の信仰の実態、同流通資本の地方都市における状態、華僑華人社会の組織などを明かにした。

研究成果の概要（英文）：In order to explore political, economic, and socio-cultural dimensions of Chinese descendents in Thailand in the twentieth century, our team collected archival documents related to overseas Chinese in National Archives of Thailand, photographed old Chinese newspapers published in Thailand which are preserved at National Library of Thailand, and conducted anthropological field researches in Chinese descendent communities in Bangkok and provincial cities. As a result of this study, we clarified the origin and development of Chinese nationalism in Thailand, Chinese Communist movements in Thailand, the religious faiths of Chinese descendents, the Chinese distribution capitals in provincial cities, and the structure of Chinese community organizations.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	6,500,000	1,950,000	8,450,000
２００８年度	7,000,000	2,100,000	9,100,000
２００９年度	6,600,000	1,980,000	8,580,000
年度			
年度			
総　計	20,100,000	6,030,000	26,130,000

研究分野：複合新領域
科研費の分科・細目：地域研究・地域研究
キーワード：東南アジア地域研究、華僑華人研究、タイ地域研究、東南アジア現代史、東南アジア経済、東南アジア社会文化

１．研究開始当初の背景
２０世紀前半、バンコクの男性人口は、タイ人と華僑がほぼ同数であった。後者の子孫が今日のタイ中間層の大部分を構成している。それ故、中国系タイ人の研究は、タイの政治、経済、社会文化を理解する上で極めて重要である。しかし、半世紀前にスキンナーが実施した古い研究以後、本格的な研究が存在していなかった。

２．研究の目的
本研究は、２０世紀のタイ華僑華人社会の諸側面、即ち政治、経済、社会文化の歴史と現状を、先行研究が使用したことがない未利用の一次文献資料、インタビュー資料、参与観察資料を用いて明かにすることを目的とした。

３．研究の方法
(1)タイ国立公文書館所蔵の華僑華人関係一次文献資料の閲覧および筆写・複写による収集。１８８８年から系統的に保存されている日刊バンコク・タイムズ紙の閲覧筆写

(2)タイ国立図書館に保存されている、バンコクで刊行された全ての中国語新聞（保存されているのは１９１８年以降）記事の閲覧および筆写・デジタル撮影による収集

(3)タイ内務省所蔵の団体登録申請書の閲覧・複写による華僑関係団体の一次資料収集

(4)地方都市、とりわけ中部タイ、東北タイ地方での華僑華人の団体、学校、流通業者、精米業者等とのインタビュー

(5)道教と大乗仏教が混淆した、バンコク華僑華人の信仰の場での参与観察

４．研究成果
(1)タイ国立公文書館資料、タイ国立図書館の中国語新聞資料、同時代のバンコク・タイムズ紙などの資料を用いて、１９１０年の華僑ストライキ（罷市）がタイ華僑華人のナショナリズムの起源であるという通説は誤りであり、その起源は１９０５年７－９月の反米貨ボイコット運動に遡ることができることを明かにした。このボイコット運動は、アメリカ政府が中国人労働者入国を認めない不平等条約の更新継続方針を示したことに対して、中国国内および海外の中国人が一致団結して不満を表明したものである。中国人の、この種の行動としては最初のものである。タイ華僑は、これに先立つ１９０３年から、５言語グループ（潮州、広東、客家、海南、福建）の初めての共同事業である天華医院の創設に着手し、１９０５年夏に完成させた。この医院は、全華僑の反米ボイコット・センターとして機能した。また、バンコクで最初の日刊中国語新聞、湄南日報が発刊されたのは、１９０４年１０月１０日であり、華僑社会における情報の共有が可能となった。
　タイ華僑のナショナリズムの発生・高揚は、孫文に対する指導的華僑の態度からも見ることができる。１９０３年５－６月に孫文が初めてバンコクを訪問した時、彼の動静に関心をもったのは、主にタイ政府当局者であり、華僑は冷淡な態度をとり、孫文は革命への資金援助者を探し出すことができなかった。しかし、中国語新聞の創刊、反米ボイコットを経たのち、１９０８年１１月に孫文が同盟会組織化と資金集めのためにバンコクを再訪した時には、蕭佛成（同盟会シャム支部長）など、政治に関心をもつ新しい指導者が誕生しており、彼らから歓迎された。しかし、華僑社会の多数派は保皇派であった。華僑社会の中心組織として長らく機能することになるシャム中華総商会が、二番目の５言語グループ横断組織として、１９０９年に成立したが、同総商会は清朝政府の指導により発足し、保皇派が牛耳った。タイ華僑社会は、辛亥革命後も保皇派の系統を引く北京政府支持派と孫文の革命支持派との間で、１９３０年頃まで対立が続いた。ここに明らかした諸事実の大半は、既存研究が言及したことがないものである。

(2)タイ国立公文書館資料、中国語新聞、インタビュー調査、ロシア国立社会政治史文書館（RGASP)、中国語文献などをもとに、タイ華僑華人および在タイベトナム人によるシャム共産党の成立（１９３０年）から１９３６年に至る時期の、タイの初期共産主義運動の実態を、初めて詳細に明かにした。例えば、シャム共産党成立の経緯、同党初代書記の呉正国の経歴と活動、同党第１回（１９３０年）から第３回（１９３４年７月）代表大会の開催状況および決定事項（方針、組織など）、

１９３５年３月１４日にマカオで開催された、シャム共産党（劉漱石代表）とインドシナ共産党海外指導部との会合での決定事項、シャム共産党が１９３５年にモスクワに派遣した２党員のプロファイルとその後の活動、華僑学校における共産主義運動の実態、などである。これらの諸事実は、先行研究では全く触れられていないものが大半である。なお、シャム共産党は１９４２年１２月にタイ共産党に改組された。本研究成果は早稲田大学リポジトリによりウェブ上に公開されている。

(3)主に、タイ、カンボジアにおけるタイ共産党関係者とのインタビューおよび当時の新聞報道などをもとに、戦後の１９４５年から急速に高まった華僑・華人を中心とするタイ共産党の運動を、華人系カンボジア人であり、タイ共産党に入党したヌオン・チア（１９６０年以降クメール・ルージュにおいてポル・ポトに次ぐ No.2 の指導者）に焦点を当てて明らかにした。ヌオン・チアのバンコク時代の生活、タイ共産党との関係は、先行研究では全く明かにされていない。彼とのインタビューで得たヒントをもとに、彼がバンコク時代に使用した氏名は、Runglert Laodi であることを突き止め、Runglert と親交があった元タイ共産党員たちにインタビューを実施し、同時に彼が１９４２年から２年間学んだ中学、１９４６年に入学したタマサート大学、１９５０年に入省したタイ外務省に Runglert についての記録が保存されていることを確認した。本成果は和文、英文で発表し、共に早稲田大学リポジトリによりウェブ上に公開している。現在、ヌオン・チアはクメール・ルージュの大量虐殺などを裁くカンボジア特別裁判部による裁判の主要被告人であり、国際的に注目されているので、本英文成果は広く利用されている。

(4)タイ国立図書館に所蔵されている、１９１８年から５０年までにバンコクで刊行された中国語新聞の殆ど全てに当る１７紙をデジタル撮影（約５万枚）や筆写（ノート２５０冊）し、また１９１０年から４０年までの『タイ官報』から華僑関係記事を抜き書きした。これらの一部は、上記(1)から(3)の成果に利用した。タイ華僑華人研究の基礎資料の集積という意味で、この資料収集の成果は重要であり、今後の研究でも利用することができる。

(5)華人の役割が大きいタイの流通機構の実態と変容を、従来にない精緻な実証研究により明かにした。即ち、タイにおける伝統的流通機構の形成過程と特徴、都市中間層及び低所得層に注目したタイ消費市場の構造的特徴の分析、流通の新業態と既存業態間の競争、流通機構の垂直関係の変化、および新業態の拡大のなかでの政府の流通政策、について解明した。

(6) バンコクにおける華僑・華人の信仰、とりわけ信仰の場については、本格的な先行研究に乏しい。中国農暦９月１日から９日間、白服着用で斎食を続け、廟や斎堂などに参拝する伝統信仰（九皇斎もしくは九皇勝会と言われる）は、本場の中国南部では消滅したが、東南アジアの華僑華人社会では根強く維持され、ますます盛んになる傾向を見せている。バンコクの華僑華人の信仰の実態を明らかにするため、九皇斎および旧正月の行事に着目して、この期間中に特定の斎堂で全日を過ごし、祭礼の主宰者（住持）や集まってくる信者とのインタビューによって、斎堂の信仰を、道教と仏教が混淆した教理、祭神、礼拝の様式、住持や信者の組織等などの諸側面から明かにした。この研究成果は参与観察によって、バンコクの斎堂の実態を初めて明らかにしたものであると評価できる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計９件）

① 村嶋英治、タイ華僑社会における中国ナショナリズムの起源、和田春樹編『東アジア近現代通史』、査読無、2010,222-243

② 伊藤友美、バンコクの九皇斎とタイ華人の信仰、タイ国情報、査読無、第４３巻６号、2009,29-40, 第４４巻１号、2010,110-127, 第４４巻２号、2010, 89-99

③ 村嶋英治、タイにおける共産主義運動の初期時代（１９３０－１９３６）、アジア太平洋討究（早稲田大学アジア太平洋研究センター）、査読無、第１３号、2009,133-212
(http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/handle/2065/29757)

④ 村嶋英治、The Young Nuon Chea in Bangkok(1942-1950) and the Communist Party of Thailand,アジア太平洋討究、査読無、第１２号、2009,1-42
(http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/handle/2065/28349)

⑤ 伊藤友美、現代タイ上座部仏教における女性の沙弥尼出家と比丘尼受戒、東南アジア：歴史と文化、査読有、第３８号、

2009,64-105(http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90001043.pdf)

⑥ 村嶋英治、カンボジア共産党ナンバー・ツー、ヌオン・チア（Nuon Chea）のバンコク時代（１９４２年―１９５０年)、アジア太平洋討究、査読無、第１１号、2008,85-121(http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/handle/2065/28580)

⑦ 宮田敏之、タイ産高級米ジャスミン・ライスと東北タイ、東洋文化（東京大学東洋文化研究所)、査読有、第８８号、2008,85-119

⑧ 遠藤元、タイにおける日用品・加工食品販売チャネルの再編、大東文化大学紀要、査読無、第４６号、2008,45-68

⑨ 伊藤友美、Dhammamata:Buddhadasa Bhikku's Notion of Motherhood in Buddhist Women Practitioners, Journal of Southeast Asian Studies,査読有、Vol.38 no.3 ,2007,409-432

〔学会発表〕(計６件)

① 村嶋英治、タイにおける共産主義運動の初期時代（タイ語)、チュラーロンコーン大学文学部歴史学科（バンコク)、２０１０年２月１０日

② 伊藤友美、Pioneering Bhikkunis in Contemporary Sri Lanka and Thailand,11th Sakyadhita International Conference on Buddhist Women(Ho Chi Minh city),２００９年１２月２８日

③ 宮田敏之、国際米価高騰とタイ米輸出：中国市場向けタイ産香り米ジャスミン・ライスの輸出急減を中心に、アジア政経学会（法政大学)、２００９年１０月１０日

④ 遠藤元、Distribution Revolution in Consumer Markets of Mosaic Structure: The Case of Thailand,シンガポール国立大学･東京大学共同セミナー(東京大学)、２００９年9月２４日

⑤ 宮田敏之、Economic History of Fragrant Rice in India, Pakistan and Thailand: A Comparative Study of Basmati Rice and Jasmine Rice, XV World Economic History Congress(Utrecht),２００９年８月４日

⑥ 伊藤友美、Bhikkhuni Restoration in Theravada Buddhism: Grounds of Authenticity for Newly Ordained Bhikkhunis, International Congress on Buddhist Women's Role in the Sangha(Hamburg),２００７年７月１９日

〔図書〕(計３件)

① 遠藤元、日本評論社、新興国の流通革命―タイのモザイク状消費市場と多様化する流通、2010,261

② 村嶋英治、他、めこん、現代タイ動向２００６－２００８、2008,416

③ 玉田芳史・船津鶴代編著、アジア経済研究所、タイ政治・行政の変革―１９９１―２００６年、2008,368

６．研究組織

(1)研究代表者
村嶋　英治（MURASHIMA EIJI）
早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・教授
研究者番号：70239515

(2)連携研究者
宮田　敏之（MIYATA TOSHIYUKI）
東京外国語大学・外国語学部・准教授
研究者番号：70309516

遠藤　元（ENDO GEN）
大東文化大学・国際関係学部・准教授
研究者番号：30307144

伊藤　友美（ITO TOMOMI）
神戸大学・大学院国際文化学研究科・准教授
研究者番号：40337746

安部（船津）　鶴代（ABE FUNATSU TSURUYO）
独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・研究員
研究者番号：60450483

(3)研究協力者
島田　顕(SHIMADA AKIRA)
関東学院大学・経済学部・非常勤講師